

木簡学会第23回研究集会

木簡学会は、木簡に関する情報の蒐集・整理、木簡そのものについての研究・保存、その成果の普及と史料としての活用を目的とするユニークな学会です。奈文研が1975年から3回にわたって開催した木簡研究集会を母体として1978年に設立されました。

12月1日(土)・2日(日)の両日、今年で第23回を数える恒例の研究集会が、全国から160名に及ぶ日本古代史・考古学・東洋史・国語学などさまざまな分野の研究者の参加を得て、奈文研平城宮跡資料館講堂で開かれました。

「墨書土器と木簡」(高島英之氏)・「都城出土漆紙文書の来歴」(古尾谷知浩氏)の2本の研究報告、「長岡京右京六条二坊の調査と出土木簡」(中



木簡学会研究集会の討論風景の一コマ

島皆夫氏)・「元岡・桑原遺跡群の調査と出土木簡」
(吉留秀敏氏・坂上康俊氏)の2件の木簡出土事例
報告の他、71に上る遺跡の古代から近代までの2001
年新出土木簡情報も報告されました。

木簡の出土は全国で20万点を越えました。その
研究において果たす奈文研と木簡学会の役割は、今
後ますます大きくなることでしょう。

(平城宮跡発掘調査部)